2014年（平成26年）
第80号
（8月1日）

平安月報
The HEIAN monthly report

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　宮地啓安
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条蹴上
TEL (075)762-2211
FAX (075)762-2266

今年は「岩戸山」を曳く　～祇園祭・山鉾巡行ボランティア～

今年の祇園祭は49年ぶりに後祭（あとまつり）が復活し、山鉾巡行が２日間に分かれ、全山鉾33基のうち７月17日の前祭（さきまつり）に23基、24日の後祭に10基の山鉾が都大路を進みました。

この山鉾巡行には毎年新宗連と本会青年部が鉾曳きボランティアとして参加しています。今年は７月17日の前祭に、新宗連青年部から７名、京都教会青年部から３名が参加して、22番目の岩戸山（いわとやま）を曳きました。

岩戸山は、その名前の通り「天（あめ）の岩戸」のことで、「古事記」や「日本書紀」に記される「国生み」と「天の岩戸」の神話を故事に因んだ曳き山です。屋形の中に、伊弉諾尊、天照大神、手力男命の３体の人形が飾られています。

本会は今年、大聖堂建立50周年、京都教会発足55周年という節目の年を迎え、ヤマトの国を生んだとされる「岩戸山」を担当することになったことに、意味深いものを感じさせられます。

市民と一緒に美しい祇園祭を　～明るい社会づくり運動がごみ回収ボランティア～

７月15と16日、明るい社会づくり運動（京都明社）では「美しい祇園祭をつくる会」が主催するゴミ分別回収ボランティアに参加しました。京都明社からは２日間でのべ48名が参加しました。

祇園祭の宵山に多くの夜店・屋台が四条烏丸を中心に広範囲で立ち並びますが、かつて道端へのゴミの投棄がひどくて祇園祭の山や鉾の景観を損ねていました。そこで、美しい祇園祭にしたいという思いから、ごみを分別回収して資源活用していこうと取り組んでいます。

時々刻々

猛暑でなかなか寝付けない人も多いでしょう。筆者も夜中に涼みに出たところ、ご近所の方が育てておられた『月下美人』の開花に遭遇しました▼この花は、午後７時頃に咲き初め、翌早朝にはしぼんでしまいます。月明りに照らされて咲く白い花はその名の通り美しいものでした▼昭和天皇が皇太子の頃、台湾を訪れたときに、側にいた台湾総督に花の名前を聞いたところ「月下の美人です」と答えたところから『月下美人』という日本名になったそうです▼花言葉は「はかない美・はかない恋・ただ一度の恋・繊細・快楽・強い意志・真実の時・ただ一度だけ会いたくて」など▼花の美しさに見とれていると、弱々しいイメージはなく、しっかりした意思をもって咲いているように見えました▼残念なことは、せっかく丹精込めて育てられた家人は、翌朝しぼんだ花びらを摘み取られたそうです。

今月のことば　～暑気を味わう～

青年婦人部長　田中　康予

今回の「今月のことば」は、青年婦人部長が担当します。

青年婦人部の方々は、家庭の中で教えを生かし、日々の実践を通して、こころ豊かな生き方を身につけようと精進しています。特に、子供たちを育てながら、子供たちから学ぶ姿勢を大切にしています。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

子供達にとって楽しみいっぱいの夏休みとなりました。この夏休み期間中、京都教会でも菩薩行のできる青少年育成を目指し、楽しく学び、遊んで過ごしてもらおうと「ニコニコキッズフェアー」を開催します。元気いっぱいの豆菩薩さんたちとご縁頂けることを楽しみにしています。

さて今月の佼成誌では、会長先生より「暑気を味わう」とご指導頂いています。

「**『夏の暑さの激しいときには、煩悩の熱を離れて涼しい悟りの味わいを得たいと願うがよい』**と華厳経の一節ですが、そう願えばたちまち涼しくなるというよりも、心のもち方一つで、たとえ同じ気温でも感じ方が変わること教えているのだと思います」と教えて下さっています。

私は、職場まで歩いていくのですが、途中にある桜の木からせみの大合唱が聞こえてきました。またこの時期がきたのかと気持ちが沈みました。せみの大合唱を聞くと暑さが増して感じるからです。

でも、せみは何故鳴くのだろうと考えてみると、子孫を残す為、命をつなげていく為に一週間という短い命を精一杯、力強く、輝かせているんだなあと思えたのです。そう思うと、暑苦しいと感じていた大合唱が「がんばれ」の応援歌に聞こえてきました。お蔭様で毎朝聞こえてくる応援歌に元気をもらい一日がスタートしています。

法話の後半で「**いやだなと思うことに対して感謝するーそれは、苦手なことや嫌いなものを受け入れ、味わうことです。**つらいと感じることもよくよく吟味してみると、たとえば暑熱やうっとうしい雨も、私たちを育む光であり、慈雨であると気づくのです。この感謝の念が、本会の会歌の一節『涼やかに生きる明るさ』や、冒頭の『涼しい悟りの味わい』につながる智慧ではないでしょうか」と教えて下さっています。

私が一番苦手にしていることは今回のように文章を書くことです。半年ほど前に「今月のことば」のお役の話を聞いた時から気が重くなり、できるだけ時間がゆっくり流れるようにと念じていましたが、あっという間に月日が流れ、その日を迎えてしまいました。

好きなことや待ち望んでいることなら、その日が来るのを楽しみに指折り数えているのに、いやだなと思うことはなかなか受け入れられない私だとつくづく感じました。

しかし今回のお役のお蔭さまで、ご法話を何度も読みかえし、日常生活の中でもアンテナをはり、意識をもって過ごすことができました。毎日いただくご飯も熱い夏がイネを立派に育ててくれているからで、私達の元気の源となるのだと思えるようになりました。

本当に“つらいと感じること”も私を育てる糧になっていると実感しました。これからは、私のまわりにあるたくさんの“**あたりまえ**”を素直に受け入れ、心豊かにすごしていきたいと思います。

そして、この気持ちをもって「ニコニコキッズフェアー」に参加される子どもさんやご両親に、『明るく、優しく、温かい』ふれあっていけるように心がけてまいります。

合掌

８月２１日の発送式に向けて「親子で取り組むゆめポッケ」

メッセージを書いています

今年も６月１日から「ゆめポッケ」キャンペーンが実施されています。同運動は紛争や対立で心に傷を負った世界の子どもたちを勇気づけようと、小・中学生が手作りカードを添え、おもちゃや文房具を詰めたゆめポッケをおくる取り組みです。

京都教会では８月21日に「ゆめポッケ」の発送式が予定されています。その日に向けて、親子いっしょに平和について語り合い、受取った子どもたちが幸せになってほしいと願い、ポッケをつくっています。

家族そろってポッケに詰めています

全国集会の開催まで１ヶ月　～提唱45周年・明るい社会づくり運動全国集会 in 2014～

9月6日の「明るい社会づくり運動・全国集会 in 2014」の開催まで、ほぼ1ヶ月になりました。

全国から集まって来られるメンバーを迎えるための準備が進められる一方で、提唱から45年という節目にあたり『明るい社会づくり運動とは何か』を見直そうと、勉強会を行いました。

去る6月1日、京都教会において全国明社の原事務局長の講演がありました。

冒頭で東日本大震災が発生した直後にボランティアとして、明るい社会づくり運動（明社）として取り組んだことを話され、明社だから細やかな心配りと全国のネットワークをもって支援できたことを語られました。

■明るい社会づくり運動が提唱されたのは

今年、明るい社会づくり運動全国集会を開くわけでありますが、名称の前に「提唱45周年」がついています。つまりこの運動は、昭和44年庭野日敬師によって提唱されたわけです。その提唱から今年で45年という、ひとつの節目を迎えるわけであります。

この運動を庭野日敬師がどうして提唱したかというと、つきつめて言えば「今の日本をよく見ると、日本はモノで栄えて、心で滅びる」ことを憂えたということです。

問題は「モノが栄えると、何で心が滅びるのか」ということです。世の中が便利になると、人への気配りをしなくてよくなるのです。それが進んでいくと、人への思いやりとか、気遣いとをしなくてもいい社会になるからです。

■明るい社会づくり運動の基本的な考え方

明るい社会づくり運動の基本的な考え方は何かといいますと『共生』ということです。

『共生』とは何か？共に生きるということですが、これがなかなか難しい。梅原猛さんが「共生には大前提がある。それは『共死』だ」とおっしゃっていました。

だから「これからは『共生』という生き方をしないと、我が企業は生き残れない」ということは「自社だけが生き延びるためにということとは、共生に反するのではないか。

福島のがれき処理を受け入れてもらおうとしても、みんな「うちは結構だ」といっている。福島の人たちはそのがれきの中で暮らしている。がれきを受け入れようとしないのは『共生』の考え方とは合わない。

東洋大学に「共生思想研究所」というのがありまして、ここが発表した中で「共に生きるの『共』とは、私にとって都合のいい人だけではありません。私にとって不都合な人も含めて『共』に生きること」とあります。極端に言えば、私を殺そうとした人であっても、共に生きるということです。これが、仏教でいう『共生』の思想なのです。

■心と心のつながりが大切

明るい社会づくり運動が提唱されて45年が経つわけであります。ある見方においては昭和44年当時よりも、物質的に豊かになったけれども、本当に提唱者が言われているような心が貧しい「貧魂時代」になっているのではないかなと思います。

それは、物が豊かになり、便利になるにつれて、自分中心になってきている。自己中心、自分主義ともいえます。高度経済成長時代に求められたのが効率化でした。提唱者は効率化について「効率化が求められる社会になればなるほど、無償の奉仕を惜しまない人が必要になってくる」と述べておられます。ここに明社の無償で奉仕する人たちの集まりに意義があるのではないかと思っています。

■明るい社会づくり運動とは何か

明るい社会づくり運動とはどういう運動かと聞かれますが、「自分たちに住む街は自分たちでよくしていこう」という運動なのだと答えています。

明るい社会づくり運動も自分たちの住む街を良くしていくには、そこに住む人でなければできないのです。いわゆる地涌の菩薩を発掘するのが明るい社会づくり運動なのです。ですから、活動することが目的ではないのです。活動を通して、菩薩を作っていくことです。

■全国集会の意義と目的

ですから、明るい社会づくり運動「全国集会 in 京都」は菩薩が菩薩を作る集まりなのです。人間だれしも人さまの役に立ちたい、社会の役に立ちたいという心（仏性）はいっぱい持っています。これには縁がなければ出てこないのです。そういう善意の心を引き出す、いわゆる縁になるというのが、明るい社会づくり運動であります。

そういう意味では、全国の菩薩が、これからどう菩薩を作っていくのかという集会を、京都のみなさんには大変ご苦労かと思いますが、陰ながら支えて頂き、成功に導いて頂けるように、ご援助いただければありがたいと思います。

（完）

比叡のお山で“こころ豊かな”学び　～第49回比叡山仏教文化講座に参加して～

７月26日、比叡山・延暦寺会館で「第49回比叡山仏教文化講座」が行われました。本会からは京都・滋賀教会から30名が参加して、比叡山の空気にふれ、３人の講師の講演を聴いて、有意義な一日を過ごしました。

最初の第１講に「三つの心」と題し、三千院門跡第62世門主・堀澤祖門（ほりさわ　そもん）師が、大切にしたい「三つの心」を紹介しました。そうした心を持って、二元相対から一元の思想に変えることで、争いを越えることができ、この絶対平和主義を日本人は世界に発信すべきだと語られました。

第２講では「舞妓さん育成に学ぶ、おもてなしの仕組み」を京都女子大学現代社会学部教授・西尾久美子（にしお　くみこ）氏は、350年続いている京都花街について研究されてきました。「芸妓と舞妓」「花街が成り立つ仕組み」「舞妓の人材育成の仕組み」「おもてなしと座持ち」などを紹介し、おもてなしの質を磨き、それに応じた顧客への対応を深めていくことで、花街のビジネスは成り立っているということを説明して頂きました。

そして第３講は、フリージャーナリストの角淳一（すみ　じゅんいち）氏が「笑って楽しく生きる」と題して講演を行いました。司会者を目指した動機から、フリーになってからは、より幅広い舞台で活躍されたことを話されました。そして、日頃から面白いと思ったことをメモにとっておられ、それらを披露されると、会場は大爆笑。多くの人の縁を大切にして、笑って楽しく生きることを満喫されているようでした。

【堀澤氏の講演要旨】

一つ目は「正しいものを求める心」。まず自分は何者かと自分の人生を問うことが大切。そうでないと、人生の目的を見出すこともせず、惰性に流されてしまう。そういう人がほとんどだ。

師は学生時代に精神的・自覚的に『再誕』することを求めてこられた。様々な書物を読んでも、京都大学に進学して学んでも答えは得られず、ふと比叡山が思い浮かび、山に登ったとき、頭だけで考えてきたからと思い、そのまま比叡山に残って、出家した。

二つ目は「暖かい心」。伝教大師の言葉「悪事を己に向かえ、好事を他に与え、己を忘れて他を利するは、慈悲の極みなり」について、ローマ法王が来日した際の講演で「この言葉こそ宗教の極致だ」と賞された。

『利他』は自己中心主義に対して、他人中心主義といえ、この利他こそ最高の生き方で、他人に奉仕する、他人のために命を捧げることができる人のことを、仏教の世界では仏や菩薩と言われる。

三つ目は、「大きな心」。誰でも受け入れることのできる心のことで、このような心になるには、自分と他人との境界を無くすことである。仏教は「すべては本来一つだという一元の思想」と教えている。善・悪、正・邪のように二元で見るから、差別が生まれ、争いを生む。このように悟ることで、すべての「枠」や「箍（たが）」を取り払って自由になることできる。この一元の世界を「空」という。

このように、考え方を二元相対から一元の思想に変えることで、自己中心主義から離れ、争いが絶やす。この世界・人類はみな一つだという絶対平和主義を日本人こそ世界に発信すべきで、それが、日本民族の新しい使命であり悲願であるとするべきだ。

華が咲きました～京都蓮華の会のみなさんの成果です～

渉外部からのお知らせ

●８～９月の主要行事予定

８月	１０日	脇祖さまご命日	９：００～
	１５日	戦争犠牲者慰霊・平和祈願の日	９：００～
９月	１日	朔日参り・布薩の日	９：００～
	４日	開祖さまご命日	９：００～
	１０日	脇祖さま報恩会	９：００～

●メッセージ

本紙も80回目になります。人生でいえば、傘寿というところです。ここまで続けられたのは、読者のみなさんからの応援のたまものです。世間ではいろいろ物騒な事件が起こっていますが、私たち一人ひとりの生き様が問われているように感じます。これからも平和な社会・世界を目指して努力していきたいと考えております。